

菅首相、追い詰められ政権投げ出し

前日まで延命工作、一転 総裁選不出馬表明

菅首相は9月3日、自民党総裁選立候補しないことを表明しました。前日までは党役員人事を行い、閣僚の一部も交代させる報道されていましたが、一転して退陣する運びになりました。

新型「コロナ」対策の無為無策・逆行、学術会議への人事介入など強権政治、政治腐敗への無反省で支持率が下落、統断断念を余儀なくされました。これは、国民の世論と運動に追い詰められた結果「ほかありません」。

同時に、政権の表紙を変えて自公政権を延命させようとする意図でもありません。記者会見は2分ほど一方的にしゃべって質問は受け付けずに終わり。国民に説明する気も、説明する言葉もない実態を示しました。

表紙変えるだけではだませない

菅首相の退陣表明で、マスコミは自民党総裁選一色です。このままいくと、臨時国会開催、総理大臣選出、そして総選挙。自民党の宣伝ばかりの中で総選挙を迎えます。

顔を変えても菅政権を支えてきた人ばかり。政治の中身は代わるはずがありません。安倍前首相から菅首相に代わったとき、支持率は70%にも達しました。再びそんな状況をつくって総選挙を迎えたいのが、この政権投げ出しの正体ではないです。



政治革新へ手を結びあい

発行：岩槻区日本共産党後援会
 さいたま市岩槻区仲町二一九一
 TEL・048-757-9525
 FAX・048-757-9801
 【部内資料】

日本共産党発行
赤旗
 日刊 3497円
 日曜版 930円



しようか。

必要なのは政治の中身を変えること(政権交代)です

菅首相は総裁選不出馬の理由を「コロナ対策に専念するため」としましたが、それが本当なら総理として陣頭指揮をとるのが一番。専門家の意見を無視してこれまでやってきた「Go To Travel」「五輪開催強行」など、対策への逆行に説明がつかないから退陣するのです。

今必要なのは、ただちに国会を開会し、「コロナ対策を練り上げること。そして政治の中身を変える政権交代(連合政権)を実現することです。



共産党の新ポスター

日本共産党の躍進こそ推進力

一貫して「市民と野党の共闘」を追求し、「連合政権」を主張してきた日本共産党の躍進、前進こそ、政権交代の推進力です。政権選択の選挙・総選挙でのご支援をお願いいたします。

衆院北関東ブロック

キャラバン宣伝

8月28日(土)残暑の日差しが強い中、北関東ブロックのキャラバン宣伝が岩槻駅東口で行われました。弁士は、前衆院議員・衆院北関東ブロック比例候補の梅村さえこさん。街頭演説で梅村さんは、「コロナ感染拡大が深刻な中、国会を開いて、まずは命を守る対策を」と、野党が憲法の規定に基づいて求めても国会を開かない臨時医療施設の設置や持続化給付金の2回目の支給や家賃支援給付金を行い、消費税は5%に、と訴えました。



梅村さえこさん(右)と司会の松村としおさいたま市議

で亡くなる方が続いているのに、「病床削減推進法」を臨時国会で自民・公明・維新で可決し、病床削減を決定しました。「自宅療養」と言いますが、実態は「自宅放置」です。

梅村さんは、こんな政権を変えるためにも「比例代表で共産党を伸ばし、私を再び国会での論戦をさせてほしい」と訴えました。

志位委員長オンライン演説会

9月5日、家で4名で視聴しました。志位委員長は、「菅首相の政権投げ出しは『こんな政治はガマンできない』という国民の世論と運動に追い詰められた結果です。その安倍・菅政権を支えてきた自公には共同の責任がある。誰が新総裁に選ばれても、その中から新しい政治が出てくることはない」と訴えました。

今日は9月9日。私も関心がない訳ではありませんが、連日テレビ等で総裁選報道がタレ流されています。驚いたことは、持病悪化ということで2回も政権を投げ出した安倍前首相が、今回の総裁選で大きな影響力を発揮していることです。安倍政治の継承まで唱える人が出現！その影響か今まで主張してこなかったようなもの？という人も出てくる始末です。これでは安倍・菅問題の解明は無理だ。コロナ対策だってあやしい。

志位委員長が指摘したように、「その中から新しい政治が出てくることはない」。皆さん、総選挙は自民党の表紙を変える作戦に引つかからないようにしましょう。

総選挙が目前。 こぞつて投票し、 政治を変えよう

総選挙が目前に迫っています。自民党は菅首相の政権投げ出しを受け、「一党の顔」を選ぶ総裁選に突入、メディアも連日大騒ぎです。

一方、野党は「市民連合」が核となり、自公政権を倒し、命を守る新しい政権の実現を目指す「野党共通政策」に、立憲民主党、日本共産党、社民党、れいわ新選組が政策合意に調印しました。これを受けて、各県、選挙区で具体的な取りくみが進みます。

「私の1票くらいでは政治は変わらない」と棄権する人が多いのが、日本の選挙の実態ですが、考えてみてください。以前、「無党派層は寝ていてくれ」と言っていた総理大臣がいました。「みんな静かにし

ていたら、政権は維持できる」「投票率が低ければ自民党が勝つ」と端的に表現したのも、逆に言うところ、一人ひとりの投票が政治を変える力だと認めたものです。誰に譲り渡すこともできない、誰からも奪われない1票を投ずる国民の権利、貴重な1票を必ず行使しましょう。

衆議院選挙は、 1人が2票もっています

- 1回目の投票は小選挙区選挙です。野党の統一候補に、候補者名で投票します。
 - 2回目は政党を選ぶ比例代表選挙（ブロックごと）です。日本共産党（または共産党）と書いてください。
- ※ 候補者名を書くこと無効となり、ホトの、↑注意ください。

文芸コーナー 映画「パンケーキを毒見する」を観た

東岩槻後援会 K



時の総理大臣を真つ向から批判し、パロディのネタによる。こんな映画が日本でも制作・上映されるようになったか！というのが第一印象。

菅首相の学術会議の任命拒否や国会でまともに答弁しない態度は、国民を政治から無関心にさせる戦略ではないか？国民は羊のように従順で逆らうことなどないかのように考えているのか？「コロナ対策で国民の命を預けられる人物なのか？権力を行使したいだけの実態のない男に日本を預けているのではないか？など」と問いかけます。そして、最後には、羊だつていつまでも従順ではないぞーという期待も込められています。全編に流れているのは、政治とは国民が選択するもの、選挙で投票することだ

といふことです。日本のジャーナリズムの中で、国民目線の「しんぶん赤旗」の報道や役割について、赤旗編集部取材を交えて紹介しています。小池書記局長の国会論戦も出ています。コロナ禍を口実に映画館閉鎖される前に、ぜひ観てください。SNSでは政権の圧力で上映中止に追い込まれる危険も言われています。

この映画にも出演している古賀茂明氏が「官邸の暴走」(角川新書)で、安部・菅政権を支える官邸官僚たちについて論じています。映画を観ての本を読むと、逆でもいいですが、官僚による村度の構造が理解しやすいですね。

市政報告会を開催しました

岩槻区日本共産党後援会は8月21日(土)、日本共産党岩槻区委員会とともに緑区選出の松村としお議員を招いて、市政報告会を開催しました。

松村議員はじめに、「コロナ対策について報告。さいたま市のワクチン接種は60歳未満はまだ始まらず、供給量が3分の2になり中断(9月3日以降再開)。PCR検査

地下鉄7号線の延伸は莫大なお金がかかり、市民の負担が大きい。交通の便を良くするとう点ではバスを走らせるほうがいいのではないかと、検討するよう提案しているとのこと。

会場からの質問への説明があり、最後に後援会事務局長から「共産党への支持を3人、5人と増やす人(担い手)を増やしてください」と訴えがあり、閉会になりました。



絵手紙 南平野 柏崎和子さん